

作物名：なし

病害虫名：ニセナシサビダニ（学名：*Eriophyes chibaensis* Kadono）



写真1 なし新梢葉のさび症状
（葉裏側に湾曲している）



写真2 なし葉のモザイク症状

1 被害の特徴と診断のポイント

- 被害は主に新梢先端部の葉にみられ、さび症状やモザイク症状が発生する。
- さび症状の場合、葉裏側に湾曲する。被害が進むと早期落葉する。
- モザイク症状の場合は、葉表側に湾曲する場合がある。
- 幼果の軸における裂傷も報告されている。
- 品種によって被害の発生程度が異なり、葉裏の毛が多い品種で被害を受けやすい。
- 宮城県では、5月下旬頃からモザイク症状がみられる。
- ニセナシサビダニはハダニ類より小さく、肉眼やルーペで寄生の有無を確認することは難しい。

2 生態

- ニセナシサビダニは、クリーム色や橙黄～橙色のうじ虫形をしている。
- 新梢の芽基部や樹皮の割れ目などで、成虫越冬する。
- 春季に越冬場所から移動を始め、膨らみ始めた芽に侵入する。
- 越冬場所からの移動は、最高気温が18℃を超す頃から始まると報告されている。宮城県の場合、平年では4月下旬頃、近年では3月下旬頃から移動が始まると思われる。
- 新梢上位の毛じの多い幼葉に好んで寄生する。
- 8月頃には、越冬場所への移動が始まる。

3 防除方法

- 粗皮削りを行う。
- 発芽前に、石灰硫黄合剤、水和硫黄剤、マシン油乳剤を散布する。
- 生育期防除では、被害（モザイク症状）が生じ始める頃（5月中旬～5月下旬頃）と増殖期（6月中旬～6月下旬頃と推定）に、ニセナシサビダニに適用のある殺虫剤を丁寧に散布する。

4 出典

(1) 参考文献

- インターネット版 日本農業害虫事典(全国農村教育協会)
- インターネット版 防除ハンドブック 日本ナシの病虫害(全国農村教育協会)
- 「ニセナシサビダニの発生と防除」(伊澤宏毅、植物防疫第55巻第8号、2001年)
- 「ニセナシサビダニによるナシのモザイク症状(仮称)と発消消長」(熊本県農業研究成果情報 No.701、平成27年5月)

(2) 写真

- 宮城県病虫害防除所撮影
- 宮城県大河原農業改良普及センター撮影

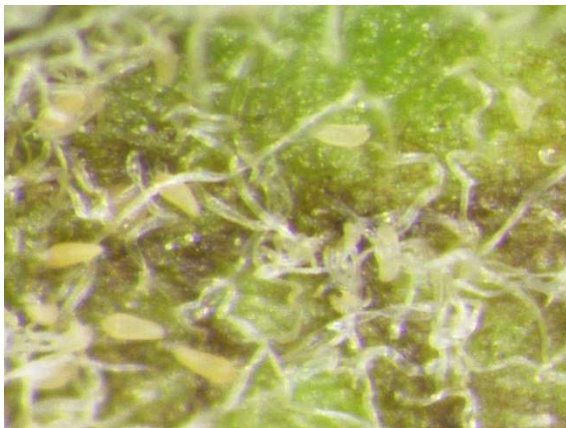


写真3 なし葉裏に寄生しているニセナシサビダニ



写真4 なし葉のモザイク症状(拡大)

(令和7年7月作成)